

第16回港湾感謝祭

開港50周年となる第16回港湾感謝祭は平成29（2017）年9月30日に石巻港大手埠頭で開催され、これまでで最も多い3隻の船が集まり、海を調べる船としてJAMSTECの「新青丸」、海を学ぶ船として宮城県の「宮城丸」、そして海を守る船として宮城海上保安部の「くりこま」への乗船見学が行われ、900人を超える方々が乗船した。



東北海洋生態系調査研究船「新青丸」



海洋総合実習船「宮城丸」



巡視船「くりこま」

屋台が並ぶ縁日コーナー



みんなでクイズにチャレンジ



「宮城丸」から餅まき



来場者でにぎわう会場

過去に実施された港湾感謝祭一覧

	開催日程	場所	寄港船舶		来場者 (主催者発表)	
第1回	平成14年10月19日(土)	大手埠頭	客船「ばしふいっくびいなす」	開催	不明	
第2回	平成15年10月18日(土) ～19日(日)	大手埠頭	独立行政法人航海訓練所帆船 「日本丸」	開催	44,000人	船内見学者 7,000人
第3回	平成16年10月24日(日)	大手埠頭	海上保安庁巡視船「ざおう」	開催	12,000人	船内見学者 2,000人
第4回	平成17年10月16日(日)	雲雀野中央埠頭	海上保安庁巡視船「くりこま」 サンドコンパクション船 (地盤改良船)	開催	13,500人	船内見学者 3,000人
第5回	平成18年10月8日(日)	雲雀野北埠頭 雲雀野中央埠頭	大型浚渫船兼油回収船「清龍丸」 海上保安庁巡視船「くりこま」	中止	-	発達した低気圧 により中止
第6回	平成19年10月7日(日)	大手埠頭	海上保安庁巡視船「ざおう」	開催	15,000人	船内見学者 3,000人
第7回	平成20年10月12日(日)	雲雀野中央埠頭	独立行政法人航海訓練所練習船 「銀河丸」	開催	15,260人	船内見学者 2,000人
第8回	平成21年10月24日(土) ～25日(日)	大手埠頭	独立行政法人航海訓練所帆船 「海王丸」	開催	32,000人	船内見学者 5,000人
第9回	平成22年10月3日(日)	大手埠頭	海上保安庁巡視船「ざおう」 「くりこま」	開催	26,000人	船内見学者 ざおう 3,500人 くりこま 3,000人
第10回	平成23年7月16日(土) ～18日(祝月)	雲雀野北埠頭 雲雀野中央埠頭	海上自衛隊横須賀地方総監部 「総合広報」	中止	-	東日本大震災 により中止
第11回	平成25年8月31日(土) ～9月1日(日)	雲雀野中央埠頭	海上自衛隊砕氷艦「しらせ」	開催	10,000人	船内見学者 7,000人
第12回	平成25年10月26日(土) ～27日(日)	中島埠頭	独立行政法人航海訓練所帆船 「日本丸」	中止	-	台風により帆船 が寄港できず中止
第13回	平成26年10月18日(土) ～19日(日)	大手埠頭	独立行政法人航海訓練所帆船 「海王丸」	開催	15,000人	船内見学者 6,000人
第14回	平成27年5月10日(日)	雲雀野中央埠頭	外国客船「コスタビクトリア」	途中 中止	2,000人	海象状況により 寄港できず
第15回	平成28年8月21日(日)	雲雀野中央埠頭	地球深部探査船「ちきゅう」	開催	7,000人	船内見学者 3,100人
第16回	平成29年9月30日(土)	大手埠頭	東北海洋生態系調査研究船 「新青丸」 宮城県海洋総合実習船「宮城丸」 海上保安庁巡視船「くりこま」	開催	3,000人	

資料

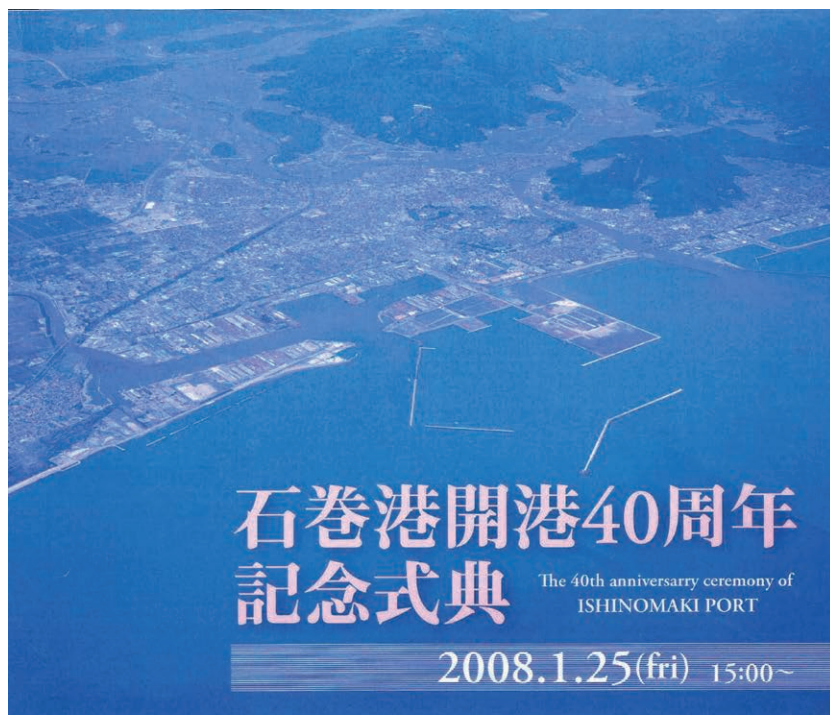
8

石巻港開港記念式典

石巻港開港40周年記念式典

開港40周年となる平成20（2008）年1月25日、石巻港整備・利用促進期成同盟会主催の「石巻港開港40周年記念式典」が石巻リバーサイドホテルにおいて開催され、関係者約150人が出席した。

式典は、石巻港整備・利用促進期成同盟会会長の土井喜美夫石巻市長（当時）の式辞から始まり、功労者表彰式では整備・利用促進に尽力した4個人、12団体を表彰し、港湾利用をさらに高め、地域発展につなげることを関係者が確認して閉式した。



式次第

- | | |
|--------------------|-----------------------------------|
| 1 開会 | |
| 2 式辞 | 石巻港整備・利用促進期成同盟会
会長 石巻市長 土井 喜美夫 |
| 3 港湾管理者あいさつ | 宮城県知事 村井 嘉浩 様 |
| 4 来賓祝辞 | |
| 5 来賓紹介 | |
| 6 祝電披露 | |
| 7 功労者表彰 | |
| 8 功労者代表謝辞 | |
| 9 記念講演 | 国土交通省 東北地方整備局
副局長 岡田 光彦 様 |
| 10 「新しい石巻港をめざして」放映 | |
| 11 閉会 | |

■主催  石巻港整備・利用促進期成同盟会



石巻港のあゆみ

石巻港(内港)は、古くは伊弉水門(いしのみなど)と称される小さな港町であった。
 川村孫兵衛重吉による北上川改修工事完成の寛永3年(1626年)以降は北上川の舟運が隆盛となった。石巻は北上川舟運の終着点として栄え、東廻り海運の移出港として活況を呈するとともに南部藩と北上川との関係がますます深くなり、盛岡より川下りして石巻に集荷し海路江戸へ廻米を行い仙台藩経済の中心を担っていた。
 藩政末期から明治初期にかけては、北上川上流部から流下土砂の堆積等による湾内埋没は河口港の宿命となり、港勢の発展に大きな障害となった。
 廻り米の始まった年代については明確ではないが、17世紀の中頃より南部藩江戸屋敷米(台所米)、木材、銅等が海運により運ばれていたことが裏付けられている。
 戦後の混乱と不安定な社会情勢にあって、石巻の将来の発展は大港湾の建設によるものと考え、道路、橋梁の建設をはじめ、河川改修、港湾改良等諸事業の促進と後進性の打開を目的に「大石巻港実現期成同盟会」が設立された。
 特に、昭和35年我が国における「堀込み式港湾」としては第1号として石巻工業港が着工され、昭和39年4月重要港湾指定、昭和42年開港指定を受け、同年3月に第1船が入港、以後続々と内外船が入港し、取扱量も年々増加の一途を辿っている。
 その後、入港船舶の増加による港湾施設の狭隘化、大型船対応、地域の活性化等から平成元年、雲雀野地区港の建設を中心とした大水深岸壁の整備と企業立地を目的とした港湾計画が改訂され、平成3年第1期計画分162.1ヘクタールについての公有水面埋立免許を取得するとともに、5万D/W級水深14m岸壁をはじめとするバース建設及びびヤードの建設が進められている。平成10年7月22日には4万D/W級水深13m岸壁1バースが、平成17年10月1日には第2バースが、また平成18年10月には水深10m岸壁がそれぞれ供用を開始したことに伴い、平成19年度には総トン数3万トンクラスの大型船舶が相次いで入港している。

石巻港の今(平成19年5月撮影)

石巻港の概要		HISTORICAL BACKGROUND OF PORT OF ISHINOMAKI.			
西暦	年号	内	容		
1623	元和9年	伊達政宗の命を受けた川村孫兵衛重吉が北上川の開削工事に着手した。以来石巻港は、米穀の積み出し港として繁栄した。	1971	昭和46年	植物検疫所石巻出張所開設。
1911~1946	明治44年~昭和21年	河口埋没対策事業や港湾施設整備を行い、500トン級貨物船の航行が可能となった。	1989	平成元年	雲雀野地区港(日和港)の建設を中心とした港湾計画が改訂される。
1950	昭和25年	地方港湾に指定される。	1991	平成3年	家畜伝染予防法による動物検疫港に指定される。雲雀野地区港(日和港)の埋立免許認可。平成7年度第一船入港を目指し整備が進められる。また、検疫所の輸入食品部門の設置にむけて取り組み中である。
1960	昭和35年	全国総合開発計画にもとづく北上川特定地域開発計画の一環として、河口西方約3の釜地区へ工業港の建設を始める。	1994	平成6年	動物検疫指定上屋(保税)設置。平成7年度第一船入港が工事の遅れ等により約2年程の遅れが生じた。
1964	昭和39年	新産業都市(仙台湾地区)に指定されるとともに重要港湾に指定される。	1995	平成7年	埋め立て工事開始
1967	昭和42年	第一船が入港するとともに出入国港の指定を受ける。	1996	平成8年	埋め立て開始式を挙行政
1968	昭和43年	検疫法による検疫港に指定される。また、植物防疫法による木材輸入港にも指定される。	1997	平成9年	ケーソンヤード起工式を挙行政
1969	昭和44年	植物検疫所による穀物輸入港に指定される。	1998	平成10年	水深13メートル岸壁供用開始
			2000	平成12年	ケーソンヤード落成、生産開始。
			2005	平成17年	雲雀野地区港の建設を中心とした港湾計画が改訂される。水深13メートル岸壁第2バース供用開始。
			2006	平成18年	水深10メートル岸壁供用開始。

功 勞 表 彰 者

1. 石巻港の整備促進に尽力し、その功績が顕著なもの

- 菊田 昭 (㈱ウジエ 代表取締役社長)
- 高橋 貞夫 (㈱山大 代表取締役社長)
- 佐藤 勲 (カイリク㈱ 代表取締役会長)
- 鈴木 啓三 (㈱七星社 取締役会長)
- 石巻港企業連絡協議会 (会長 平川 昌宏)
- 石巻港運協議会 (会長 緒方 康文)
- 石巻港輸入木材調整会 (会長 上田 慶太)
- (社)宮城県石巻港植物検疫協会 (会長 野田 四郎)

2. 石巻港のポートセールスに尽力し、その功績が顕著なもの

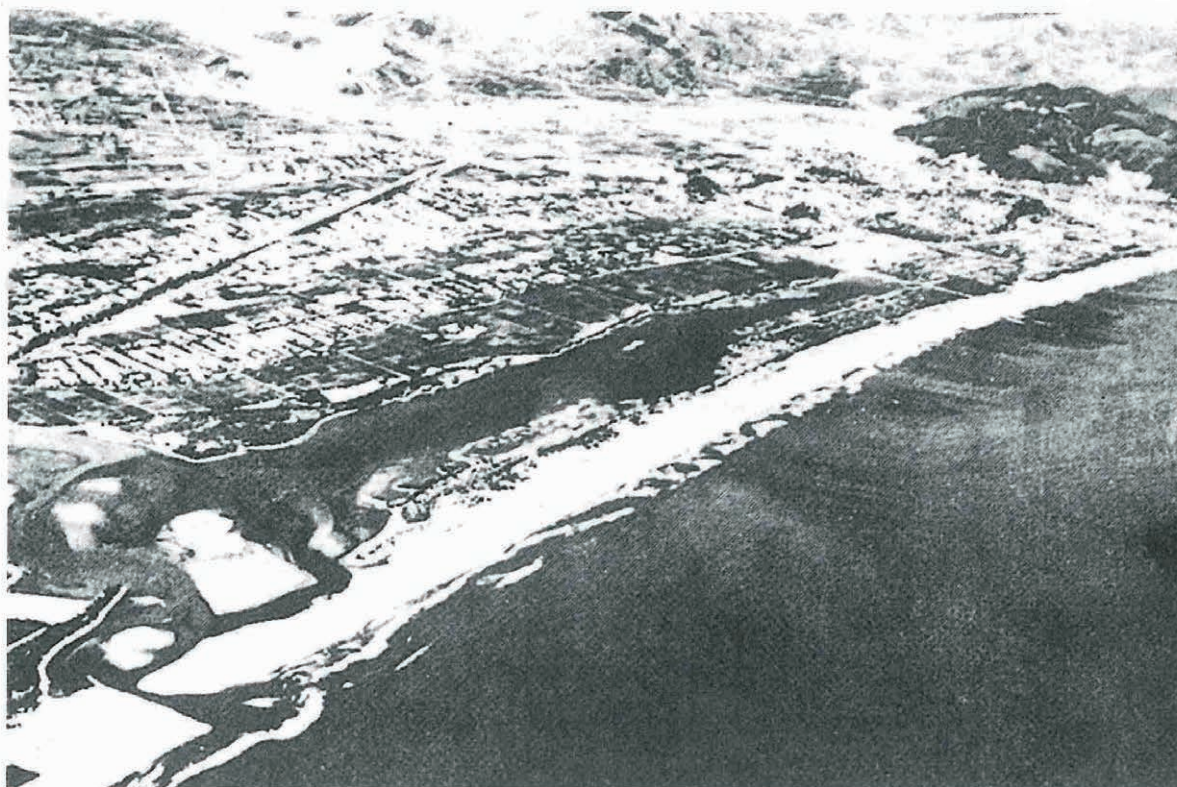
- 日本通運(株)仙北支店 (支店長 三河 文雄)
- 南光運輸(株) (代表取締役社長 緒方 康文)
- カイリク(株) (代表取締役会長 佐藤 勲)

3. 石巻港のPR及びイメージアップ活動に貢献し、その功績が顕著なもの

- 石巻埠頭サイロ(株) (代表取締役社長 宮本 知明)
- 石巻港工事安全協議会 (会長 細矢 重規)
- 石巻を考える女性の会 (会長 木村美保子)
- 石巻商工会議所女性会 (会長 久道 澄子)

4. 石巻港の環境整備に尽力し、その功績が顕著なもの

- 石巻港清港会 (会長 宮本 知明)



昭和35年5月 釜地区 掘り込み式港湾の第1号として着工された

石巻港開港50周年記念式典

開港50周年となる平成29（2017）年7月12日、石巻港整備・利用促進期成同盟会主催の「石巻港開港50周年記念式典」が石巻グランドホテルで開催された。

式典には、関係市町（石巻市、東松島市、女川町）、同盟会会員企業、国土交通省東北地方整備局、宮城県等の関係者が参加し、50年間の発展、東日本大震災後の復興を振り返るとともに、さらなる石巻港の発展を願った。



式次第

1	開 会	
2	式 辞	石巻港整備・利用促進期成同盟会 会長 後藤 孝二様 石巻市長 亀山 敏
3	挨拶	宮城県知事 村井嘉浩様
4	来賓祝辞	
5	来賓紹介	
6	祝電披露	
7	功勞者表彰	
8	石巻港事業概況	宮城県石巻港湾事務所 所長 後藤 孝二様
9	記念講演	国土交通省 国土技術政策総合研究所 管理調整部長 諸星 一樹様
10	閉 会	



■主催 石巻港整備・利用促進期成同盟会
■共催 宮城県・石巻市・東松島市・石巻商工会議所

資料

9 年表

年号 (西暦)	石巻港の沿革
明治13年 (1880年)	埋没土砂対策工事に着手 (明治33年まで継続)
明治44年 (1911年)	河口埋設対策事業、施設の整備に着手 (昭和21年まで継続)
大正11年 (1922年)	指定港湾になる
昭和2年 (1927年)	石巻港における最初の内陸護岸、繁船設備の建造完了
昭和10年 (1935年)	石巻河口港突堤第1期工事完了
昭和25年 (1950年)	5月 地方港湾に指定
昭和26年 (1951年)	9月 漁港に重複指定
昭和28年 (1953年)	北上特定地域総合開発計画閣議決定
昭和35年 (1960年)	工業港建設着手 (試験堤20m)
昭和36年 (1961年)	11月 工業港起工式
昭和37年 (1962年)	5月 「宮城県釜工業港建設工事事務所」設置 (石巻市門脇東中浜)、庶務課工務課の二課制をしく
昭和38年 (1963年)	4月 「釜工業港」から「石巻工業港」へ呼称を統一 〃 宮城県釜工業港建設工事事務所を「宮城県石巻工業港工事事務所」に改称、事務所を石巻市字七窪に移転
昭和39年 (1964年)	3月 仙台湾地区新産業都市指定 4月 重要港湾に指定 8月 港湾審議会第23回計画部会 (計画の新規策定) 〃 工業港用地交渉開始
昭和40年 (1965年)	工業港埋立工事着手
昭和41年 (1966年)	4月 宮城県石巻工業港工事事務所が工務課を廃止し工務第一課・第二課制に
昭和42年 (1967年)	3月 工業港開港後、第1船「越後丸」が入港 〃 宮城県石巻工業港工事事務所を現名称「宮城県石巻港湾事務所」に改称 6月 関税法に基づく開港指定 8月 工業港開港記念式典 〃 宮城県石巻港湾事務所で新たに次長を配置し港政課制をしく 11月 出入国港指定
昭和43年 (1968年)	7月 南浜埠頭完成 10月 検疫法による検疫港指定 〃 植物防疫法による木材輸入港指定
昭和44年 (1969年)	3月 南浜1万トン岸壁、日和1万トン岸壁が完成 6月 植物防疫法による穀物輸入港指定 12月 港湾審議会第39回計画部会 (計画の変更)
昭和45年 (1970年)	5月 石巻港湾事務所が工務第一課工務第二課を統合し工務課制をしく
昭和46年 (1971年)	8月 植物防疫法による指定港 〃 中島岸壁450m完成
昭和47年 (1972年)	3月 宮城県石巻港湾事務所を石巻市中島町17-2の現在地に新築移転 4月 宮城県石巻港湾事務所が庶務課を総務課に名称変更 5月 港湾審議会第50回計画部会 (計画の改訂)
昭和51年 (1976年)	大手岸壁完成 7月 港湾審議会第74回計画部会 (計画の一部変更)
昭和52年 (1977年)	石巻商工会議所が日和港整備レイアウトを作成 石巻商工会議所が県知事へ日和港整備を陳情 5月 工業港開港10周年記念式典 〃 日和岸壁完成

年号 (西暦)	石巻港の沿革	
昭和53年 (1978年)	1月	港湾審議会第81回計画部会 (一括審議)
	6月	宮城県沖地震発生
昭和54年 (1979年)	3月	工業港概成
昭和56年 (1981年)	3月	港湾審議会第92回計画部会 (計画の改訂) ※石巻副港計画決定
	8月	宮城県石巻港湾事務所で新たに技術次長を配置
昭和58年 (1983年)		雲雀野防波堤工事着手 (昭和62年度完成)
	3月	港湾審議会第101回計画部会 (計画の軽微な変更)
	11月	関係13漁業協同組合との合意成立
昭和59年 (1984年)		港湾区域の拡張
	3月	雲雀野地区南防波堤の工事着手
	12月	港湾審議会第108回計画部会 (計画の一部変更)
昭和60年 (1985年)	3月	雲雀野防波堤 (1,800m) 完成
	11月	石巻日和港定礎式 (石巻副港を石巻日和港と改称)
昭和62年 (1987年)		石巻工業港開港20周年
	3月	南防波堤函塊第1函進水
平成元年 (1989年)	7月	港湾審議会第128回計画部会 (計画の改訂)
平成3年 (1991年)		雲雀野地区公有水面埋立免許
		家畜伝染病予防法に基づく動物検疫港に指定
平成7年 (1995年)		雲雀野地区の埋め立て工事開始
平成9年 (1997年)		ケーソンヤード起工式を挙行
	10月	第27回地方港湾審議会 (計画の軽易な変更)
平成10年 (1998年)	7月	雲雀野中央埠頭1号岸壁 (-13m) 供用開始
	〃	雲雀野中央埠頭1号岸壁に第一船入港
平成12年 (2000年)	10月	ケーソンヤード落成、生産開始
平成13年 (2001年)	4月	塩釜港が特定重要港湾に昇格し、仙台塩釜港へ港名変更
平成17年 (2005年)	3月	交通政策審議会第13回港湾分科会 (改訂)
	10月	雲雀野中央埠頭2号岸壁 (-13m) 供用開始
平成18年 (2006年)	10月	雲雀野北埠頭1号岸壁 (-10m) 供用開始
平成20年 (2008年)	1月	石巻港開港40周年記念式典開催
	11月	内航コンテナ定期航路開設
平成21年 (2009年)	11月	交通政策審議会第36回港湾分科会 (一部変更)
平成23年 (2011年)		国際バルク戦略港湾に指定された鹿島港と連携港湾となる
	3月	東日本大震災発生
	4月	地震の影響で利用できなかった主要岸壁13バースで一般船舶の利用が可能となる (喫水制限付)
	〃	宮城県石巻港湾事務所の臨時出張所設置 (石巻港湾合同庁舎西側の荷さばき地内)
	7月	岸壁荷さばき地の応急復旧完了
	9月	宮城県石巻港湾事務所が現地で復旧し業務再開
	11月	第33回地方港湾審議会 (計画の軽易な変更)
	〃	航路泊地の浚渫が完了
平成24年 (2012年)	10月	三港 (仙台塩釜港、石巻港、松島港) の統合
平成25年 (2013年)	6月	交通政策審議会第52回港湾分科会 (計画の改訂)
	11月	災害復旧工事完了
平成27年 (2015年)	11月	防波堤 (南) 仙台側1,100m概成
平成29年 (2017年)	7月	石巻港開港50周年記念式典開催

あ と が き

昭和42（1967）年6月に県北部の拠点工業港として開港した石巻港は、昨年、50周年を迎えることができました。

昭和35（1960）年に釜地区で着工して以降、太平洋の荒波から港湾を守る防波堤・防砂堤・突堤といった外郭施設の設置から始まり、水域施設として欠かせない航路・泊地の浚渫工事と、その浚渫した土砂による工業用地の造成を行い、待望の第一船を迎えることができたのは着工から7年もの歳月が経過した昭和42（1967）年でした。その後、造成した工業用地には木材・飼肥料食品・金属鉄鋼・運輸倉庫等の工場が続き建設され順次操業を開始したことにより、我が国の高度経済成長と相まって、平成元（1989）年には取扱貨物量が570万トンにまで達し過去最大となりました。その後、我が国の経済状況に併せて上下しながらも高止まりの状況が続き、東日本大震災では港湾施設の被災により大幅な落ち込みがみられたものの、復興需要などもあり現在は回復基調にあります。

この間、それぞれの時代のニーズに併せて、港湾計画も改訂を5回、一部変更等を10回行ってきましたが、特に大きな変更は、昭和56（1981）年と、平成25（2013）年の改訂ではないでしょうか。まず、昭和56（1981）年の改訂は、船舶の大型化とそれに伴う取扱貨物量の増大等に対応するため計画を大幅に変更し、雲雀野地区に新たな港湾を整備することとしたもので、現在の石巻港を形づくる基となったものです。そして、平成25（2013）年の改訂は、東北地方の中核港湾を目指すとともに本県における港湾の競争力を高めるため、国際拠点港湾である仙台塩釜港と重要港湾である石巻港、地方港湾である松島港とを統合し、新たな国際拠点港湾「仙台塩釜港」を誕生させたものでした。

また、開港50年の間には昭和53（1978）年の宮城県沖地震、平成23（2011）年の東日本大震災と2回もの大きな災害に見舞われておりますが、国内の港湾でこのような経験を受けた港湾はないのではないのでしょうか。

特に東日本大震災では港内のみならず背後地である石巻市も含めた広範囲の地域に未曾有の被害を与えました。当事務所の庁舎も例外ではなく、大津波の直撃を受けて一時的な事務所機能の内陸への移転を余儀なくさせられましたが、震災直後から関係機関の多大なる協力を得ながら、航路や臨港道路の啓開作業と応急復旧工事に事務所一丸となって取り組んだ結果、平成23（2011）年4月27日には一般貨物船が震災後の初入港を果たし、翌年10月に日和・大手・雲雀野の各埠頭において応急復旧工事が完了したのを皮切りに、震災からわずか3年後の平成26（2014）年には全ての公共岸壁において復旧工事を完了させることができました。

このように開港50年の間には語り尽くせない幾多の困難がありましたが、ここまでの整備・発展が成し遂げられたのは石巻市を始めとする周辺の市町や国などの関係機関の皆様と、石巻港へ進出していただいた日本製紙株式会社をはじめとする石巻企業連絡協議会会員各位の御協力の賜物であり、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。また、関係した一人一人の皆様におかれましても本記念誌を通して当時を振り返っていただき、皆様の御協力の上に、現在の石巻港があることを実感していただければ幸いに存じます。

石巻港は昨年、開港50周年を迎えましたが、東日本大震災からの復旧・復興はまだまだ道半ばです。最後になりますが、港内はもとより背後地周辺の方々の安全・安心のために一日でも早く復旧・復興工事を完了させることを皆様にお約束して、結びのあいさつといたします。

平成30(2018)年3月
宮城県石巻港湾事務所
所長 後藤 孝二

石巻港開港50周年記念誌

平成30(2018)年3月31日 発行

編集・発行 宮城県
石巻港整備・利用促進期成同盟会
編集協力 パシフィックコンサルタンツ株式会社

